

教科等研究会（小学校国語部会） 令和元年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり
～付けたい力と手立てを明らかにして～

2 研究経過

第 1 回			第 2 回			第 3 回			第 4 回		
期日	人数	場所	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者	期日	場所	授業者
6/3	42名	広安小	9/20	御船小	中川聖介	11/8	広安西小	本田有美子	1/23	龍野小	田尻優希奈

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① テーマ設定

本年度の郡教科等研究会全体テーマ「児童生徒一人ひとりが輝く「分かる・できる」「楽しい」授業づくり」を受け、小学校国語部会では、研究テーマを「「分かる・できる」「楽しい」国語科の授業づくり」として研究を進めていくことにした。また、本テーマの研究を進める上で、身に付けるべき具体的な国語の能力と手立てについて授業研究会で検証していくために、「付けたい力と手立てを明らかにして」をサブテーマとして設定した。国語科の学習において、付けたい力と手立てを明らかにして「分かる・できる」「楽しい」授業づくりをしていくことがねらいである。

本テーマの授業づくりには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が不可欠であり、そのためには言語活動の創意工夫が必要である。つまり、本テーマは、これまでの言語活動を中心とした研究をもとに、本テーマでの授業づくりを目指すことで、国語科において育成を目指す資質・能力を身に付けることができ、さらに「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成する」という国語科の目標の実現に直結しているテーマであると考えられる。

② 基本方針

ア 講話・研究授業・授業研究会を中心に研究を進める。

イ 地区を3つの地区に分け、各地区理事は3名ずつとする。事前研・授業研の運営等は、各地区の理事が中心となって実施する。

ウ 研究授業では、授業者は学習指導案の他に研究授業の主張点を資料として付け、授業者のねらいを明らかにして授業研究にあたる。

エ 授業研究会では、討議の柱を設け討議の柱を中心に、各会員の実践を踏まえ意見交換をする。

③ テーマに迫る研究のあり方

ア 上益城の学力の現状から、国語科としての授業のあり方について学ぶ

濱本竜一郎先生（阿蘇市立波野小学校校長）による講話から「上益城の学力の現状と対策」について学んだ。

イ 研究授業の主張点

サブテーマに沿い、授業者が授業で付けたい力とその手立てを明確にするために「研究授業の主張点」を作成し、指導案とともに参加者に提示している。「研究授業の主張点」は、「単元で身に付けたい力」「本時で付けたい力」と「そのための手立て」の他「単元の課題」「授業づくりの工夫」さらに、「身に付けた力の日常化」の項目からなり、研究授業の開始前のオリエンテーションで参加者に説明し、参観の視点を明らかにして参観できるようにした。

ウ 討議の柱を中心にした意見交換

研究授業の参観及び研究会の視点の中心となるものとして「討議の柱」を設定した。限られた時間の中で研究を進めるためには、様々な研究の視点の中から本時の授業で明らかにされる部分に焦点を当てて討議を行う必要がある。事前研究会での協議をもとに「討議の柱」

を決定し授業研究会を行った。さらに、授業研究会では、全体での質疑応答の後、討議の柱を中心に少人数での班別協議を行った。その際、付箋紙を活用し、討議の柱に沿った意見交換がしやすいように工夫した。

班別協議後の全体への発表



(2) 成果と課題

① 成果

- ・ 本年度は、講話と3回の授業研究会を行った。講話からは、「上益城の学力の現状を知り、これからの国語教育のあり方という本研究テーマに迫るための基本的な情報や考え方を会員全員で学ぶことができた。
- ・ 授業研究会では、低学年と中学年の説明文教材、高学年の話す・聞く・書くの複合単元という教材を基に授業づくりやその手立てについて学ぶことができた。説明文教材では、低学年からどのような力を付けていくのが話題となった。特に、読むことに苦手意識を持つ児童にとって、どのような手立てが有効であるのか、授業を通して意見交換をする中で学ぶことができた。
- ・ 各研究会で討議の柱を中心に、班別に付箋紙を活用し意見交換をしたことで、討議がそれより広がりすぎたりすることなく、意見交換をすることができた。また、班別に協議したことを全体に出し合うことで、授業についての学びや手立てについて全体で共有し、深めることができた。

② 課題

- ・ 会員一人一人が、授業力を向上させるために、各地区の会員が意見を出し合いながら授業を創り上げるよう計画した。しかし、結果的には、授業者や授業者の学校や近隣の学校の会員が主に関わることが多くなり、授業者への負担も大きくなってしまった。事前研の持ち方や期日の調整等を工夫し、より多くの会員で創り上げる授業にしていく必要がある。
- ・ 会員それぞれが積極的に授業づくりにかかわることができるように、事前研究会や授業研究会の持ち方をさらに工夫していくが必要である。

4 実践事例

(1) 授業の概要

単元名：考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう「明日をつくるわたしたち」

授業者：御船小学校 中川 聖介 教諭

- ① 本単元の目標は、「自分たちの身の回りにある問題について調べ、解決のための提案書を書くことができる」である。本実践では、本時で身に付けたい力を「説得力のある提案書を書く」と設定し、そのための手立てとして、知識構成型ジクソー法を用いて、児童が主体的に説得力のある提案書の書き方を学ぶことができるように授業づくりを行った。児童は、まず教師から示された動画やエキスパート資料をもとに、同じ資料の仲間と共同で必要なことを考えた。そして、自分のグループに戻り、グループの児童に必要な情報を伝えながら、説得力のある提案書を書くための自分の考えを積極的に交流していた。

授業後の授業者自評では、まず「書くこと」の単元で授業をした理由、知識構成型ジクソー法を用いて授業づくりをした意図について、授業者の思いが語られた。そして、この授業で知識構成型ジクソー法が効果的であったのか、授業研究会で討議してほしいとの提案があった。

- ② 研究協議では、知識構成型ジクソー法についての質疑が多く出された。この方法で授業に取り組んだ会員がほとんどなく、単元の中で、どの場面でどのように取り入れるのが効果的かなど、多くの意見が出し合われた。これまで「書くこと」の単元では、教師から書き方の方法を与えることが多くあったが、このような方法も取り入れてみたいという意見も出された。

金垣裕至部長からは、課題と単元のゴールを意識して授業を作っていくことが大切である。その上で、子どもたちにどのような活動をさせ、そのためにどのような資料を提示するのかなど、子どもに力を付けるために教師がどのような環境を整えるべきか、投げかけた授業であったとまとめられた。また、講師に来ていただいた平成音楽大学専任講師の梶山範夫先生からは、話し合い活動の中で、しっかり聞くためには、反応しながら聞くことが前提となる。また、しっかり話すためには、伝える相手との関係で伝えるためにどう話すかを意識させることが大切である。教育は人であり、教師と子どもとの関係が基盤となるというまとめがあった。

(2) 学習指導案

第5学年1組 国語科学習指導案

令和元年9月20日(金) 指導者 教諭 中川 聖介

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 単元名 | 考えを明確にして話し合い、提案する文章を書こう 「明日をつくるわたしたち」(光村図書) |
|---|-----|---|

2 単元について

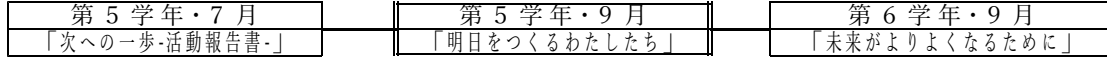
(1) 指導観

本単元は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の複合単元である。「話すこと・聞くこと」では、互いの立場や意図をはっきりさせながら計画的に話し合うことを重点的に指導する。「書くこと」では、「提案書」の形式を経験する。事実と意見の区別、簡潔な結論、詳細な解決策など、目的に応じて書き分ける力を養う。

「明日をつくるわたしたち」には、自分たちが生活している社会の構成員としての自覚を促す響きがある。この時期なりの、社会に対する関心を高め、視野を広げたい。学校や地域の課題を見つけ、その解決策を探り、その後の実践活動にもつながるよう指導していきたい。

(2) 系統観

国語科における本単元の系統的な位置付けは、次のとおりである。



(3) 児童観 男子15名, 女子12名, 計27名

本学級の児童は、休み時間に本を読んだり、図書室で本を借りたり、日頃から読書に親しむ児童が多い。国語の学習を楽しみにしている児童もあり、学習内容への関心も高い。

年度当初に行われた標準学力調査の領域別の結果は、以下のとおりである。4項目中2項目において目標値を上回っているものの、すべての項目で全国平均値を下回っている（下記表参照）。

	全国平均値	目標値	正答率
話すこと・聞くこと	83.8	76.7	82.1
書くこと	59.8	56.7	55.2
読むこと	72.4	71.4	65.1
伝国等	79.2	73.3	74.8

以上の結果を受け、国語科のみならず他教科においても、わからない語句について辞書引きを行ったり、話し合い活動を積極的に設定したりしている。また、学校全体で読書の奨励をしているところであり、課題改善に向け実践中である。

本単元は、児童にとって目的意識が明確であるため、主体的な学習の展開が期待できる。また、その後の活動へもつなげやすく、学習の達成感も得られやすいだろう。

以上から、本単元は児童にとって魅力ある学習といえる。

(4) 指導観

- 話し合い活動においては、時間を十分に確保したり活動形態を工夫したりすることで、全員参加を保障する。
- 書く活動においては、目的意識と相手意識を明確にし、一方的な指導、単調な書く活動に陥らないようする。今回は、学校をよりよくするために、今ある学校の課題とその解決方法を、該当する委員会に提案することを最終的なゴールに設定する。
- 提案文書作成については、本単元での学習だけでなく、委員会活動や係活動、総合的な学習の時間等でも活用し、普段の生活の中でも浸透するようにしたい。

3 単元の目標

- (1) 話題を決めて、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。
- (2) 自分たちの身の回りにある問題について調べ、解決のための提案書を書くことができる。

4 単元の教科規準（国立教育政策研究所作成の「評価規準の設定例」）

国語への 関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	言語についての 知識・理解・技能
①身の回りの問題について調べ、解決のための提案書を書くことに関心を持ち、問題に関する情報を集めたり、自分の考えをまとめたりしようとしている。	①収集した知識や情報を関連づけて話し合っている。(ア) ②話題に対する自他の考え・感じ方の違いを踏まえ、計画的に話し合っている。(オ)	①題材に関する情報収集の方法を知り、幾つかの方法を用いて情報を集めている。(ア) ②提案書の構成を明確にして、書いている。(イ) ③事実と感想、意見を区別して、目的や意図に応じて提案書を書いている。(ウ) ④書いたものを読み合い、よりよくなるよう推敲している。(オ)	①言葉から受ける感じや、言葉の使い方について関心を持ち、説得力が増すように表現を工夫している。(イ)(カ)

5 指導計画及び評価基準（14時間扱い）


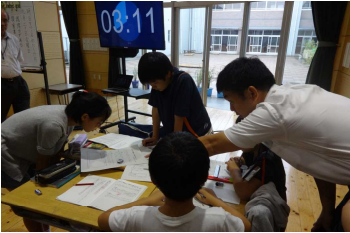
次	時	学習活動	関	話	聞	書	言	評価基準及び評価方法		
I	1	○学校をよりよくするために、今どのような課題があるか話し合う。	○					関心・意欲・態度①（観察） 提案書を書くことに関心を持ち、問題に関する情報を集めようとしている。		
	2	○自分の取り上げたい課題について情報を集めて、自分の考えをまとめる。							○	書く能力①（ノート） 自分の取り上げたい課題について情報を収集し、事柄を整理している。
II	3	○同じ課題ごとにグループとなり、解決方法とどの委員会に提案するのか協議する。 ○決まった解決方法について、さらに資料を集める。		○				話す・聞く能力①（発言・観察） 収集した情報を関連付けて協議している。		
	4								○	話す・聞く能力②（発言・観察） 自他の意見の違いを踏まえ、計画的
	5									

		○グループで話し合い、提案書に書く内容を整理する。				に話し合いを進めている。
III	6 本時 7	○提案書の書き方を知る。			○	<u>書く能力③(提案書)</u> 提案書の表現や構成を理解し、提案書を書くことができる。
	8 9	○構成メモを作成する。			○	<u>書く能力②(ノート)</u> 自分の考えを明確に表現するための構成を考えている。
	10	○分担部分について、必要に応じて再取材をし、記述する。			○	<u>書く能力③(提案書)</u> 事実と感想、考えを区別して提案書を書いている。
	11	○提案書を推敲する。			○	<u>書く能力④(提案書)</u> 原稿を読み合い、推敲している。
	12	○みんなの記述を持ち寄り、提案書を作成する。			○	<u>知識・理解・技能①(提案書)</u> 提案書として説得力が増すような表現方法を工夫している。
IV	13 14	○読み合い、感想を伝え合う。 ○学習を振り返る。	○			<u>関心・意欲・態度①(観察・ノート)</u> 提案書を書くことに関心をもち、自分の考えをまとめようとしている。

6 本時の学習 (6/14)

(1) 目標 説得力のある提案書の書き方を理解し、提案書を書くことができる。

(2) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点及び評価	備考
導入 5分	1 本時のめあてをつかむ。 めあて 説得力のある提案書の書き方を知り、提案書を書く。	○学習計画を見ながら前時の学習をふり振り返り、本時の学習内容についての見通しを持たせるようにする。	学習計画表
展開 35分 (5)	2 モデルを通して、個人で説得力が増す表現に書き直す。 課題 中川さんの提案書をもっと説得力のあるものにしよう。	○児童にとってより魅力的な学習課題となるように、視覚資料を用いる。 	動画 モデル(個)
(15)	3 知識構成型ジグソー法を通して、学習課題を解決する。 (1) 個人で考える。 (2) エキスパート活動をする。 A 明確な提案理由 B 具体性のある提案内容 C 文末表現の工夫	○活動前に、個人の考えを出し合い、学習の視点づくりを行う。 ○安心して学習に臨めるように、視覚的に学習の流れを示す。 ○同じ資料の仲間と協働的な学習を進め、自信をもって次の活動に進めるようにする。 ○各時間、十分な時間を設定することで、納得するまで対話したり、自分の考えを深めたりさせる。	大型モニター タブレット エキスパート 資料 モデル(個) モデル(班)
(15)	(3) クロストークをする。 	【評価】(学習プリント・発言) 提案書の表現や構成を理解し、提案書を書くことができる。	
終末 5分	4 本時と次時の学習について確認する。	○自由に意見交流し、次時への学習意欲の喚起を図る。 ○次時の学習の連絡をし、学習意欲の喚起を図る。	